

※※2020年5月改訂（第8版）

※2016年7月改訂

日本標準商品分類番号

872259

経皮吸収型・気管支拡張剤

※ 日本薬局方 ツロブテロール経皮吸収型テープ

処方箋医薬品^注

ツロブテロールテープ0.5mg「YP」

ツロブテロールテープ1mg「YP」

ツロブテロールテープ2mg「YP」

TULOBUTEROL TAPE

- ◆貯 法：室温保存
- ◆使用期限：2年（外箱，内袋に表示）
- 注）注意－医師等の処方箋により使用すること

承認番号	0.5mg：22500AMX00655000
	1mg：22500AMX00656000
	2mg：22500AMX00657000
薬価収載	2013年6月
販売開始	2006年7月

【禁忌（次の患者には使用しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

※【組成・性状】

販売名	ツロブテロール テープ0.5mg「YP」	ツロブテロール テープ1mg「YP」	ツロブテロール テープ2mg「YP」
1枚中の成分・含量	日局ツロブテロール 0.5mg	日局ツロブテロール 1mg	日局ツロブテロール 2mg
添加物	スチレン・イソブレン・スチレンブロック共重合体、脂環族飽和炭化水素樹脂、水素添加ロジングリセリンエステル、その他1成分		
性状	支持体、ライナー及び膏体からなる粘着テープ剤である。		
外形 大きさ	 2.5cm ² (16mm×16mm)	 5cm ² (22.5mm×22.5mm)	 10cm ² (32mm×32mm)
識別コード	YP-TT05	YP-TT1	YP-TT2

【効能・効果】

下記疾患の気道閉塞性障害に基づく呼吸困難など諸症状の緩解
気管支喘息、急性気管炎、慢性気管炎、肺気腫

【用法・用量】

通常、成人にはツロブテロールとして2mg、小児にはツロブテロールとして0.5～3歳未満には0.5mg、3～9歳未満には1mg、9歳以上には2mgを1日1回、胸部、背部又は上腕部のいずれかに貼付する。

※※【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)

- 甲状腺機能亢進症の患者〔症状が増悪するおそれがある。〕
- 高血圧症の患者〔血圧が上昇することがある。〕
- 心疾患のある患者〔心悸亢進、不整脈等があらわれることがある。〕
- 糖尿病の患者
〔糖代謝が亢進し、血中グルコースが増加するおそれがある。〕
- アトピー性皮膚炎の患者
〔貼付部位にそう痒感、発赤等があらわれやすい。〕
- 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕

2. 重要な基本的注意

- 気管支喘息治療における長期管理の基本は、吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用であり、吸入ステロイド剤等により症状の改善が得られない場合、あるいは患者の重症度から吸入ステロイド剤等との併用による治療が適切と判断された場合にのみ、本剤と吸入ステロイド剤等を併用して使用すること。

本剤は吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の代替薬ではないため、患者が本剤の使用により症状改善を感じた場合であっても、医師の指示なく吸入ステロイド剤等を減量又は中止し、本剤を単独で用いることのないよう、患者、保護者又はそれに代わり得る適切な者に注意を与えること。

- 気管支喘息、慢性気管炎又は肺気腫治療の長期管理において、本剤の投与期間中に発現する急性発作に対しては、短時間作動型吸入 β_2 刺激薬等の他の適切な薬剤を使用するよう患者、保護者又はそれに代わり得る適切な者に注意を与えること。

また、その薬剤の使用量が増加したり、効果が十分でなくなってきた場合には、疾患の管理が十分でないことが考えられるので、可及的速やかに医療機関を受診し治療を受けるよう患者、保護者又はそれに代わり得る適切な者に注意を与えること。

- 気管支喘息治療において、短時間作動型 β_2 刺激薬等、急性発作を緩和するための薬剤の使用量が増加したり、効果が十分でなくなってきた場合には、生命を脅かす可能性があるため、吸入ステロイド剤等の増量等の抗炎症療法の強化を行うこと。

- 用法・用量通り正しく使用しても効果が認められない場合（目安は1～2週間程度）は、本剤が適当でないと考えられるので、使用を中止すること。なお、小児に使用する場合には、使用法を正しく指導し、経過の観察を十分に行うこと。

- 用法・用量を超えて使用を続けた場合、不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがあるので、用法・用量を超えて使用しないように注意すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カテコールアミン製剤 アドレナリン イソプロテレノール 等	臨床症状：不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがある。	機序：本剤及びカテコールアミン製剤はともに交感神経刺激作用を持つ。
キサンチン誘導体 テオフィリン アミノフィリン水和物 ジプロフィリン 等	臨床症状：低カリウム血症による不整脈を起こすおそれがある。	機序：本剤及びキサンチン誘導体はともに細胞内へのカリウム移行作用を持つ。
ステロイド剤 プレドニゾン ベタメタゾン ヒドロコルチゾン 等		機序：ステロイド剤及び利尿剤は尿中へのカリウム排泄を増加させる。
利尿剤 トリクロルメチアジド フロセミド アセタグラミド 等		

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用(頻度不明)

- アナフィラキシー：アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、全身潮紅、血管浮腫、蕁麻疹等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 重篤な血清カリウム値の低下: β_2 刺激薬により重篤な血清カリウム値の低下が報告されている。また、 β_2 刺激薬による血清カリウム値の低下作用は、キサンチン誘導体、ステロイド剤及び利尿剤の併用により増強することがあるので、重症喘息患者では特に注意すること。さらに、低酸素血症は血清カリウム値の低下が心リズムに及ぼす作用を増強することがある。このような場合には血清カリウム値をモニターすることが望ましい。

(2) その他の副作用

分類	頻度	頻度不明
過敏症 ^{注)}		発疹、そう痒症、蕁麻疹
循環器		心悸亢進、顔面紅潮、不整脈、頻脈
精神神経系		振戦、頭痛、不眠、全身倦怠感、めまい、興奮、しびれ感、筋痙縮、熱感、こわばり感
消化器		悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、胃部不快感
肝臓		AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇
血液		好酸球数増加
皮膚		適用部位そう痒感、適用部位紅斑、接触性皮膚炎、適用部位疼痛、適用部位変色
その他		CK (CPK) 上昇、血清カリウム値の低下、胸痛、浮腫、口渇、筋肉痛

注) 症状が認められた場合には使用を中止すること

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、低用量から使用を開始するなど慎重に使用すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。
〔妊娠中の使用に関する安全性は確立していない。〕

(2) 授乳中の婦人には本剤使用中は授乳を避けさせること。
〔動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。〕

7. 小児等への投与

(1) 6ヵ月未満の乳児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。
(2) 小児等における長期投与時の安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

8. 適用上の注意

貼付部位

- 貼付部位の皮膚を拭い、清潔にしてから本剤を貼付すること。
- 皮膚刺激を避けるため、毎回貼付部位を変えることが望ましい。
- 本剤をはがす可能性がある小児には、手の届かない部位に貼付することが望ましい。
- 動物実験(ラット)で損傷皮膚に貼付した場合、血中濃度の上昇が認められたので、創傷面に使用しないこと。

【薬物動態】

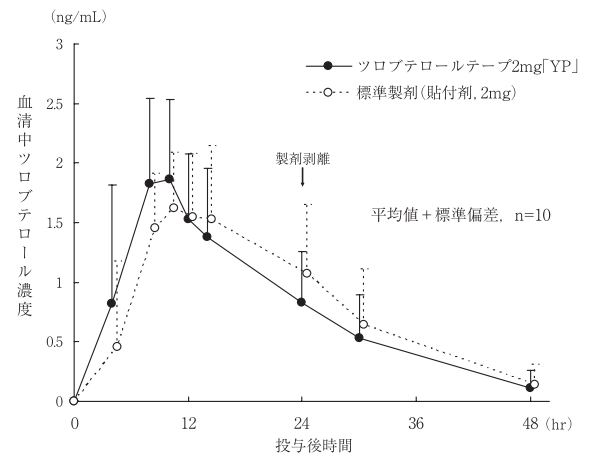
生物学的同等性試験¹⁾

ツロブテロールテープ2mg「YP」と標準製剤それぞれ1枚(2mg)を、クロスオーバー法にてそれぞれ1枚(2mg)健康成人男子に24時間単回経皮投与して血清中のツロブテロール濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC₀₋₄₈, C_{max})について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

また、ツロブテロールテープ0.5mg「YP」及びツロブテロールテープ1mg「YP」においても、ツロブテロールテープ2mg「YP」の場合と同様に、クロスオーバー法にて得られた薬物動態パラメータ(AUC₀₋₄₈, C_{max})について統計解析を行った結果、標準製剤との生物学的同等性が確認された。

	AUC ₀₋₄₈ (ng・hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)
ツロブテロールテープ2mg「YP」	37.85 ± 16.03	2.00 ± 0.73	9.2 ± 2.5
標準製剤(貼付剤, 2mg)	39.24 ± 16.03	1.82 ± 0.48	10.8 ± 3.4

(平均値 ± 標準偏差, n = 10)



血清中濃度並びにAUC, C_{max}等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

※【薬効薬理】²⁾

ツロブテロールは、選択的アドレナリン β_2 受容体作動薬である。 β_2 受容体刺激により多くの平滑筋を弛緩させるが、 β_1 受容体刺激による心臓促進作用は弱い。臨床的には、気管支平滑筋弛緩作用を利用して気管支拡張薬として用いられる。

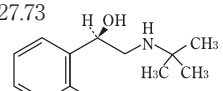
※【有効成分に関する理化学的知見】

一般名: ツロブテロール (Tulobuterol) (JAN)

化学名: (1RS)-1-(2-Chlorophenyl)-2-(1,1-dimethylethyl)aminoethanol

分子式: C₁₂H₁₈ClNO

分子量: 227.73

構造式:  及び鏡像異性体

性状: 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末である。本品はメタノールに極めて溶けやすく、エタノール(99.5)又は酢酸(100)に溶けやすく、水にほとんど溶けない。本品は0.1 mol/L塩酸試液に溶ける。本品は40℃で徐々に昇華する。本品のメタノール溶液(1→20)は旋光性を示さない。

融点: 90~93℃

※【取扱い上の注意】

使用時及び保管についての注意:

患者には本剤を内袋のまま渡し、本剤を使用するときに内袋から取り出すように指示すること。

安定性試験³⁾

最終包装製品を用いた長期保存試験(25℃, 相対湿度60%, 24ヵ月)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、ツロブテロールテープ0.5mg「YP」、ツロブテロールテープ1mg「YP」及びツロブテロールテープ2mg「YP」は通常の市場流通下において2年間安定であることが確認された。

【包装】

- ・ツロブテロールテープ0.5mg「YP」
70枚(1枚/袋×70袋)
- ・ツロブテロールテープ1mg「YP」
70枚(1枚/袋×70袋)
- ・ツロブテロールテープ2mg「YP」
70枚(1枚/袋×70袋)、210枚(1枚/袋×210袋)

※【主要文献】

- 1) 祐徳薬品工業株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験)
- 2) 第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店) C-3143 (2016)
- 3) 祐徳薬品工業株式会社 社内資料 (安定性試験)

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

祐徳薬品工業株式会社 学術研修部
〒812-0039 福岡市博多区冷泉町5番32号
オーシャン博多ビル
TEL. 092-271-7702
FAX. 092-271-6405

製造販売元  祐徳薬品工業株式会社
佐賀県鹿島市大字納富分2596番地1